

意見陳述 (第五回口頭弁論において)

令和8年1月8日

山本大貴

こんにちは、原告の山本大貴です。東京で生まれ育ち、現在は神奈川県内の大学に通っています。

2019年の秋、令和元年東日本台風や関連する大雨災害を目の当たりにし、災害ボランティアに参加したことが、初めて気候危機の直接的な影響に触れた機会だったと思います。地元の東京都調布市には多摩川が流れしており、水害と隣り合わせの地域です。この時も、多くの家屋が床上・床下浸水の被害に見舞われ、僕の友人の家も浸水被害がありました。

当時、僕は高校1年生でした。何かしなければという思いに駆られ、被害が大きかった栃木県まで父親と一緒に向かい、泥かきや水浸しになった家具を運び出すボランティアに参加しました。大人たちに混じりながら必死に作業しましたが、なかなか思うように進みませんでした。部屋の中に入り込んでいたヘドロをスコップで掻き出そうとしますが、粘り気の強さと重さで、思うようにスコップが動きません。表面の部分から少しづつ掻き出していくと、床が見えてきました。畳を剥がして持ち上げようとしますが、泥水を吸っていて、想像を絶する重さです。なんでこんなことになってしまったのか。住民の方々の疲れ切った表情を見ながら、悲しくて、悔しくなるばかりでした。

その後、気候変動問題について情報を得る中で、温暖化の進行によってこうした災害が今後頻発し、農業や漁業など第一次産業に大きな影響がもたらされ、夏の猛暑は全く経験したことのないレベルに到達する、恐ろしい未来が訪れる 것을知りました。頭を殴られたようなショックでした。そして、こんな危機的状況を分かっていながら、「今まで通り」を維持しようとしている危機感のないこの社会に、とてつもない苛立ちと悲しみを感じたことを覚えています。

この問題は、一人一人の努力や我慢では解決しようがなく、一部の大量排出事業者が大きく方向性を転換し、エネルギーのあり方を変えていかなければなりません。日本でも、近年、2050年カーボンニュートラルの達成に向けて対策を進めようという機運が広がっています。しかし、目指さなければならないのは、2050年カーボンニュートラルそれ自体ではなく、世界の平均気温上昇を1.5度までに抑える国際合意に基づいた対策です。2030年や2035年などを目標に、早期に大幅な排出削減を行う必要があり、2050年に排出が実質ゼロになっていい、ということではありません。この認識の違いは、些細なことではなく、深刻に捉えなければいけないと思います。

気候危機という大きな問題に対して、私に一体何ができるのか、試行錯誤を重ね、様々なアクションをしました。その中で、私は、神奈川県横須賀市での新たな石炭火力発電建設に対して訴訟を起こしていた住民の方々と出会いました。この訴訟を映像に記録し、声を上げていた人たちがいたことを伝えたいと思い、2023年の終わり頃から、カメラを手に現場に足を運び始めました。裁判は棄却が確定し、幕を閉じましたが、原告の住民の方々の活動は今も続いており、その力強さに私自身、とても勇気づけられています。

これまで、日本の石炭火力訴訟で訴えが取り下げられる理由として、一つ一つの火力発電所のCO₂排出量は日本全体や世界全体で見れば小さい、というものがありました。気候変動対策の強化を求める活動をしていると、日本だけが頑張っても仕方ない、と言われることがあります。本当にそうでしょうか。日本は世界的に見て、大量排出国であり、その最大の排出源の一つである火力発電所は、大きな大きな責任を負っています。国際合意に照らし合わせた行動は、責務です。

私が今回の訴訟に参加したのは、横須賀石炭訴訟の原告の皆さん方が繋いできた思いを引き継ぎ、私たちは決して小さな声でないことを証明するためです。変化に期待することを諦め、気候変動の影響や不安に怯えながら暮らす全ての人の目が向けられていると考えてください。企業や政府が、国際合意を軽視し、一人一人の権利を蔑ろにするのであれば、司法にも訴えかけたいと思い、今日、私はこの場に立っています。

私たちは、この社会で普通に暮らしているだけで、温室効果ガスの排出に加担してしまいます。変わりゆく地球環境に絶望しながら、それでも生きていくのです。気候危機の現状を知つてから、未来に希望を持って生きることに、どこかで躊躇する自分がいます。将来、家を建ても、洪水で流されるかもしれない。山火事で、避難を強いられる日がくるかもしれない。次の世代に、外で走り回って遊ぶ楽しい夏休みを残すことができないかもしれない。時間をかけ、ゆっくりと、私たちはたしかに権利を奪われていきます。

それでも、私たちは生きていくのです。

気候変動問題という新しい問題にも真正面から向き合ってください。私は声を上げ続けることを諦めません。